

紫波の歴史かるた大会 紫波歴史研究会が開催 ＝次世代に紫波の歴史を伝える＝

紫波町の自然・歴史・文化・芸能・人物等の謂われを住民を含め次世代に伝え、さらに地域の魅力や価値を再発見し地域に対する関心や愛着を高めるとともに、歴史遺産を活用したまちづくりの一環として紫波歴史研究会が主催、岩手県立大学総合政策部と紫波総合高校2年生による協働企画開発、樋爪館懇話会ほか2団体が後援により2月5日に町中央公民館和室で開催された。

当日は、児童・高校生・大学生・一般の参加者ら約60人が集い、子ども・学生かるたの部、一般かるたの部の2回に分けて4人1組に読み手1人が付き、5組ずつ行われた。

紫波の歴史かるた読み句や絵札写真の作成にあたっては、県立大学、紫波総合高校との協働研究の下に進められたが、学生や生徒は紫波の歴史について触れる機会が少ないなかつたが、短期間で仕上げられたということである。

《自然》を例として、読み句「新山で 上から眺める紫波町を 澄んだ空気と緑の町並み」絵札裏の解説に、「盛岡藩は、新山を岩手山・姫神山・早池峰山とともに盛岡城の四方を擁護する鎮山と位置づけていた。山頂からは滝名川や葛丸川によって形成された県内でも有数の穀倉地帯である。紫波扇状地が一望できる。

特に水鏡になる田植え時期は、田園風景が水面に映え、夏には一面に緑の絨毯が敷き詰められ、秋には黄金色に変わる。紫波町が全国に発信できる田園都市景観と言える。」

競技終了後に最優秀作品や絵札を最多取得した人の表彰を行い、盛会裏にそして楽しく終えることができたことと告げ閉会した。



学生らが作った紫波の歴史かるた
絵札の裏側には絵図の解説がある



4人1組となつて行われた紫波の歴史かるた大会の様子
1位は31枚(子ども、学生の部)、29枚(一般の部)ゲットした

《《《3月の行事予定のお知らせ》》》

3月15日 (水曜日)	第138回 月例発表会	午後7時～午後9時 赤石公民館 講義室 発表者：大沢斗志子 講 談「是信房お墓山縁起」 「河村秀清出世物語」 発表者：石幡信 テーマ「河村氏について」
----------------	----------------	--

令和5年2月15日開催した第137回月例発表会において、発表の際に用いましたパワーポイント映像から一部分を抜粋して掲載しましたのでご了承願います。

八百年前の樋爪館・五郎沼予想図(CG) STUDIO OHHO



【予想図の解説】

政庁、寺院、御所の3点セットが機能的に立地している。

また、上方部分の土地には、倉庫や住居等が整然と並んでいる。

紫波の史跡・遺跡【標柱コース】を巡る 音声ガイド櫻井早苗



【佐比内城跡】 佐比内川を北から見下ろす山上に位置する中世の城跡である。

現在は、熊野神社の境内となっているが、郭を中心として土塁や堀などが残っている。



【五枚平金山跡】 仙台鉱山監督局の「東北鉱山風土記」によれば、确实と思われる創始年代を治承2年(1178)とし、創始者は、藤原秀衡となっている。



【北条館遺跡】

北上川西側に所在する中世の城館跡である。

【五郎沼経塚跡】

出土した経塚の埋納容器と推測される須恵器系統陶器壺は、12世紀後半のもので五郎沼経塚が奥州藤原氏時代の経塚であることの証拠となっている。



【片寄城跡】

別名は今崎城、遺跡名は柳田館です。南部氏の重臣中野吉兵衛の城であったことから中野館、吉兵衛館とも称されたが、中野氏以前の来歴は不明で寛文4年(1666)以前に廃城となっている。



【久々館遺跡】

県道盛岡石鳥谷線の宮手久々館地内

に所在する中世の城館跡です。県道両側に空堀や土塁の跡が現存している。